

## 2) 琉球・沖縄の染織資料に関する調査研究

宮城奈々<sup>1</sup>

キーワード：色材 科学調査 染と織 生芭蕉 黒朝衣

### 1. 書籍『科学の目でみる琉球王国の色とその色材～国宝・琉球国王尚家伝世品をはじめとする琉球・沖縄の染織品を中心に～』について

#### 1) 書籍発刊の目的

令和6年1月15日に発刊された『科学の目でみる琉球王国の色とその色材～国宝・琉球国王尚家伝世品をはじめとする琉球・沖縄の染織品を中心に～』（写真-1）は、琉球・沖縄の染織文化財に対する科学的調査の成果を公開し、芸術文化の発展に寄与することを目的としている。

#### 2) 編集過程と協力者

出光美術館の令和3年度出版助成を受けて、令和4年度から令和5年度にかけて、143点の科学調査対象資料の結果を整理し、原稿執筆から編集までを行った。

本書の編集は、下山進氏（吉備国際大学名誉教授）監修のもと、宮里正子氏（当財団総合研究所 研究顧問/前浦添市美術館長）、下山裕子（デンマテリアル株式会社色材科学研究所）、大下浩司氏（吉備国際大学 教授）、佐々木益氏（株式会社半田九清堂 保存科学分析室）、篠原あかね氏（沖縄県立博物館・美術館 主任）、與那嶺一子氏（沖縄県立博物館・美術館 主任学芸員）、宮良みゆき氏（久米島博物館 主任学芸員）の協力を得て、書籍発刊に至った。

#### 3) 書籍の概要

沖縄県における科学調査の歴史や背景を序章で紹介し、総目録で調査対象作品143点の基本データを示している。第1章では、科学調査の分析事例を詳しく紹介し、文化財の非破壊分析法によって得られる色材や素材の情報について解説している。第2章では、調査対象作品143点の非破壊分析結果を示している。第3章では「琉球国王尚家関係資料」の美術工芸品を中心とした色材調査結果と尚家文書に登場する色材について、第4章では紅型衣裳に使用された有機染料「鬱金」の持続性（染色堅牢度）に焦点を当てた調査研究、第5章では「琉球王国文化遺産集積・再興事業」における色材調査の成果に基づく復元事業の紹介、第6章では、琉球関係染織作品における混色表現の傾向についての考察、そして末尾に全科学調査の結果一覧表、索引、表の索引を掲載している。

本書は、沖縄県内の主要機関に所蔵される歴史的

に重要な染織文化財の非破壊色材調査の結果を一冊に集約しており、琉球・沖縄の染織文化財に使用された色材の総覧としての役割を果たすとともに、今後の染織研究や復元製作研究などに活用されることが期待される。

#### 4) 今後の展望

科学調査の成果を活用し、未解明の近世琉球における染織品の染色技法や、有機染料の色素の耐光性に対する染色方法の解明について等の調査研究が必要である。

### 2. 企画展「沖縄の染と織の至宝 — 桃原用昇コレクション —」の実施について

#### 1) 企画展の趣旨

本展は、石垣島出身（東京都在住）の桃原用昇氏が収集した、琉球王国時代に製作された染織品の柄や技法が反映された古典的な染織品と、これらの伝統を基に創作された染織品を紹介することにある。本展を通じて、時代を超えて受け継がれる染織品への深い理解を促し、染織作家たちの高度な技術と、豊かな感性を紹介するとともに、伝統と革新が融合する染織の世界を紹介することを本展の趣旨とした。

#### 2) 展示会期、場所

前期：令和5年10月27日（金）～11月12日（日）  
後期：令和5年11月15日（水）～11月26日（日）  
場所：沖縄県立博物館・美術館 3階特別展示室

#### 3) 作家紹介、展示作品、展示内容、関連催事、図録製作・販売

##### (1) 展示作品の作家一覧（敬称略、生年順）

鎌倉 芳太郎（1898年生）/国指定重要無形文化財  
「型絵染」保持者  
城間 榮喜（1908年生）/県指定無形文化財  
「びん型」保持者  
與那嶺 貞（1909年生）/国指定重要無形文化財  
「読谷山花織」保持者  
平良 敏子（1920年生）/国指定重要無形文化財  
「芭蕉布」保持者  
宮平 初子（1922年生）/国指定重要無形文化財  
「首里の織物」保持者

<sup>1</sup>琉球文化財研究室

玉那覇 有公(1936年生)/国指定重要無形文化財  
「紅型」保持者  
藤村 玲子(1939年生)/県指定無形文化財  
「びん型」保持者  
新垣 幸子(1945年生)/県指定無形文化財  
「八重山上布」保持者

## (2) 展示構成

ギャラリーの中央に紅型幕を配置し、その前方に設置した台上に紅型作品を着せたマネキン3体が古典女踊りをするかのように展示した。この展示を中心に、ガラスケース展示では作家ごとに分けて作品を紹介した。また、作家の人物像を紹介するため、作家の顔写真とプロフィールを掲載したパネル展示も行った(写真-2)(写真-3)。

## (3) 展示内容

前期：着物(紅型9点、織10点)、紅型踊衣裳2点、  
紅型振袖2点、帯(紅型12点、織6点)  
後期：着物(紅型9点、織9点)、紅型踊衣裳3点、  
紅型振袖2点、帯(紅型11点、織6点)、  
暖簾1点(織)  
前後期：紅型幕1点、筒描きうちくい2点、紅型  
額装2点

## (4) 関連催事

会期中、展示会場内で染織専門家2名を講師に迎え、沖縄県立芸術大学 音楽学部琉球芸能専攻 琉球舞踊組踊コースの学生および沖縄県立首里高等学校 染織デザイン科2年生を対象にギャラリートークを実施した。

## (5) 図録製作・販売

図録は8名の作家ごとに人物紹介で区切り、作品の画像を掲載する構成とした。図録の末尾には全作品の一覧表を加えた。刊行された図録はおきみゅー内のショップで委託販売され、展示会期中452冊が販売された(写真-4)。

## 3) まとめ

本企画展の開催に当たって、関係者、後援者、協力者の多くの方々からご協力をいただいた。展示期間中に7,049人の来場者数を記録したことは、県内で初めて紹介された貴重な染織品への高い関心を示している。

## 3. 芭蕉地衣裳資料の布地・糸に関する調査

### 1) 調査の目的

調査の目的は、近世琉球における役人の公式な衣服であった朝衣に織られた芭蕉糸の特性とその製法

を明らかにすることにある。現存する朝衣資料の芭蕉糸は、極細で毛羽立がなく、無撚りであるという特徴を持つ。本調査では、これらの特性を持つ芭蕉糸は使用された朝衣資料と、近代に製作されたと推定される類似の糸質を有する芭蕉布の古着物資料を比較分析することを通じて、芭蕉糸の製法とその技術がどのように展開し、広がっていったかを検討する。

### 2) 今年度の調査

本年度の実施した調査は、本島中部の個人宅に保管される芭蕉製古着物3点(写真-5)および宮古島市総合博物館に収蔵されている黒朝衣3点(写真-6)、合計6点を対象とした。調査方法は、マイクロスコープを使用し、各資料の布地の密度(糸と糸の間隔)の測定(写真-7)(写真-8)と芭蕉糸の拡大写真(写真-9)(写真-10)を撮影し、詳細なデータ収集を行った。収集したデータは、今後の分析研究の基礎資料とする。

### 3) 生芭蕉繊維のウー引きワークショップの所見

生芭蕉のウー引き(繊維抽出)ワークショップに参加する機会を得た。異なる条件下で処理されたナハウを用いて、ウー引きの実践が行われた。具体的には、3種類の処理条件が設定された。一つ目は、2週間真水に浸したナハウ、二つ目は1週間真水に浸したナハウ、そして最後にワークショップ当日に採取されたナハウとキヤギが使用された。実践の結果、どの繊維も引きやすく、処理条件の差による顕著な差異は観察されなかった。さらに注目した点として、生引きで得られた芭蕉繊維は、乾燥後もその白さを維持している点であった。この繊維の白さは、染色処理を施した際の色の発色に影響を及ぼすことが予想される。今後の調査では、この繊維の白さがどの程度長期間維持されるかについても観察を行いたい(写真-11)。

### 4) 今後の課題

今年度の収集データも含め、これまでに収集したデータの整理および分析を行う。さらに、生芭蕉からウー引きされた繊維との比較分析を通じて、朝衣に使用される芭蕉糸の製法に関する検討を深める予定である。

## 4. 外部評価委員会コメント

出光美術館出版助成による刊行業務は、外部組織との協力関係を保持、調整した事業であり評価できる。王国時代の古染織品の調査データを基に、現代の染織産業や財団オリジナル商品の開発など産業振興の具体的な検証も重要である。(宮里顧問：元浦添市美術館館長)



写真-1 令和6年1月15日発行の書籍表紙



写真-2 企画展の展示会場



写真-3 企画展の展示会場



写真-4 企画展の図録表紙



写真-5 芭蕉製古着物



写真-6 宮古島市総合博物館  
所蔵の黒朝衣



写真-7(写真-5)の布地密度



写真-8(写真-6)の布地の密度



写真-9(写真-5)の芭蕉糸拡大写真

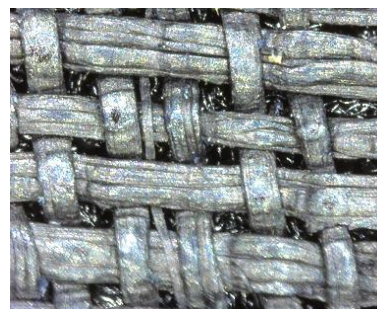


写真-10(写真-6)の芭蕉糸拡大写真



写真-11 生引きで得られた芭蕉繊維(ナハウー)